

報告

「天文絵本・児童書展」を開催しました

塚田 健（東京学芸大学／天文学とプラネタリウム）

1. はじめに

さる2006年3月27日（月）～29日（水）、和歌山大学にて行われた日本天文学会2006年春季年会に合わせて、「天文絵本・児童書展」を開催した。

今回の展示会は、児童病棟への天文書籍の寄付の話題がきっかけとなって、天文絵本の情報を本会及び、「天文学とプラネタリウム（以下、天プラ）」メーリングリストで募集したことはじまる[1]。絵本に関する多くの情報が集まり、その関心の高さを知ることができた。そして、「多くの人に天文絵本の存在を知ってもらいたい」という思いから、急遽、天文学会の年会の場所をお借りして展示会を行うこととなった。

2. 展示会の様子

天プラでは、貸していただける絵本・児童書を募集した。直前であったにも関わらず、筆者がもっていたものを含め、50冊近くが集まった。中にはアメリカや中国の絵本・児童書もあり、なかなか人気であった（図1）。

学会の参加者のみならず、和歌山大学教育学部の学生や教職員の方々など、多くの方に見てもらうことができた。来場した方々から「懐かしい」という声も多く聞かれ、自身が読まれていた本についての話を聞くことができ、子どもの頃に読んだ本の影響の大きさを感じることができた。



図2 会場のようす(1)



図1 アメリカや中国の絵本・児童書



図3 会場のようす(2)

来場された方からも新しく本の情報を得ることができた。またわざわざ持ってこられた方もおられ、まだまだ知られていない多くの天文絵本がある、という感じがした。何よりも来場された方々とたくさんの意見・情報交換をすることができ、非常に有意義であった。

3. 海外絵本の翻訳を

今回、アメリカや中国の絵本も数多く並んだ。来場者からは、「海外にすばらしい絵本が多いので、それを日本語に翻訳してはどうか？」という声が多数あがった。確かに、日本で出版されている天文絵本の中には、海外の絵本の翻訳物も数多くある(『星座を見つけよう』[2]など)。もちろん、著作権をはじめ翻訳出版権等の問題、さらに日本特有の戦時加算などの問題はあるが、検討する価値はある。翻訳や出版に関してなにか情報をお持ちの方はぜひお寄せいただきたい。

4. 自分たちで絵本を作る

天文の絵本はまだまだ少ない。それは科学系の絵本を集め紹介している書籍[3]からもわかる。加えて、天プラで情報を集めた天文絵本・児童書のリスト[4]や、今回展示した絵本を見てもわかるが、絵本には星座や星の見え方を扱ったものは多いが、「天文学」を扱った本はさらに少ないのが現状である。また、きれいな写真が得やすいせいか、天体写真を解説した図鑑的な本は多いが、いわゆる「絵本」はもっと少なくなる。しかし、天文学が絵本に向かないとは思われない。天文学の絵本は作れるはずである。

和歌山大学教育学部の教員の方々から、「天文学会で天文学の絵本を作ってみてはどうか？」という提案を受けた。天文学会というもの一つの手ではあるが、私は、これが本会でこそやるべきなのではないかと考える。「幼老障」の中の一つ、幼児への天文教育活動の

一環として、重要な位置を占めると考える[5]。もちろん、絵本作りが私たちの一方的な満足で終わってしまっただけではいけない。子育て関係のNPO法人などとも協力して、どのような絵本ならば子どもたちに、そして親たちに受け入れてもらえるか、リサーチも必要である。

5. 今後の展望

今後も絵本・児童書に関する情報をさらに集めつつ、このような展示会を行っていきたく考えている。6月10日(土)に立教大学にて行われる本会関東支部会でも行う予定である。また、今回の展示会では充分に行うことができなかったが、絵本・児童書の書評・感想などを広く集め、また人気投票の類も行いたいと考えている。今後、本誌でも紹介していき、[3]の天文版のような冊子を作れればと思う。

また、このようにして集まった絵本を用いた取り組みも今後展開していきたいと思う。読み聞かせやBOOKcafeのようなものが考えられるが、ぜひ絵本を活用した取り組みが行えればと思う。

参考文献/ウェブサイト

- [1] 塚田健、2006、天文系の絵本を求めて、『天文教育』、3月号、p.38
- [2] 『星座を見つけよう』、H.A.レイ 文・絵、草下英明 訳、福音館書店
- [3] 『子どもと楽しむ科学の絵本850』、子どもと科学をつなぐ会
- [4] <http://www.tenpla.net/php/book/>
- [5] 篠原秀雄、2006、天文教育普及研究会関東支部研究会兼Astro-HS関東地区集会の報告、『天文教育』、1月号、p.28